

兵庫県立兵庫津ミュージアム

令和6年度秋季企画展 イワシとニシンと兵庫津の商人 —江戸時代、サカナは肥料だった—

開催期間：2024年10月12日（土）～2024年12月8日（日）



【企画展の内容・目的】

- 江戸時代に肥料として重宝された「イワシ・ニシン」をテーマに、魚肥を売り買いする兵庫津商人や、魚肥を育んだひょうごの産業についての古文書・錦絵・船模型などを展示。わたしたちのくらしと海との関わり方を考え、海がつなぐネットワークの広さを感じる機会とする。
- 江戸時代の廻船集団や兵庫津についてより深く学ぶ学術講演会や、ワークショップイベント「江戸時代を楽しもう」などを実施し、展示への学びを深め、海と人とのかかわり方を改めて考える機会とする。
- 魚肥が育てた地域産業について、「日本酒と酒米」「播州織」「丹波布」の現在の取り組みを動画上映し、海洋資源との関わり方を考える機会とする。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：2024年10月12日（土）～2024年12月8日（日）
- 開催場所：兵庫県立兵庫津ミュージアム ひょうごはじまり館 2階
- 入場者数： 4,441 人



兵庫県立兵庫津ミュージアム 外観



企画展会場 入口



「第1章 江戸時代の自然環境」では、展示の導入部として、江戸時代に新田開発がすすみ水田が広がる風景に変わっていったこと、群れて泳ぐイワシを捕まえて肥料（魚肥）として使ったことを紹介した。①動画によるイワシの生態の紹介、②伝統的なイワシ漁のようすの提示、③江戸時代の新田開発と耕地面積の増加という順序で展示を展開し、限界を超えて開発された広い耕地を維持するために、魚肥（海のめぐみ）が欠かせなかったことに気づけるよう工夫した。

展示の導入部では、イワシの生態や特徴を紹介するために、姫路市立水族館の協力を得て、水族館の大水槽で泳ぐカタクチイワシ・マイワシの群れの動画を上映した。群れて泳ぐイワシのようすやエサに群がる魚群のようすを撮影できたことで、「日本近海どこでも獲れたイワシ」「身近な海洋資源」という展示主旨を分かりやすく提示することができた。

伝統的なイワシ漁のようすについては、イワシ漁がさかんであった千葉県内の博物館から絵画資料や古写真の写真データを借用したほか、兵庫県内で使われた漁具を展示した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



「第2章 魚肥を運ぶ人々」では、兵庫津の廻船問屋の古文書などを展示し、魚肥を売り買いした江戸時代に兵庫津のにぎわいを紹介した。特に、魚肥が売り買いされる中継拠点であった兵庫津のにぎわいと商人による商いのようすを具体的に紹介することに重点を置き、古文書を読み解きながら学ぶという展示構成とした。くずし字を活字化して現代語訳した解説パネル、地図や模式図などを置くことで、くずし字が分からなくても内容が読み解けるように工夫した。

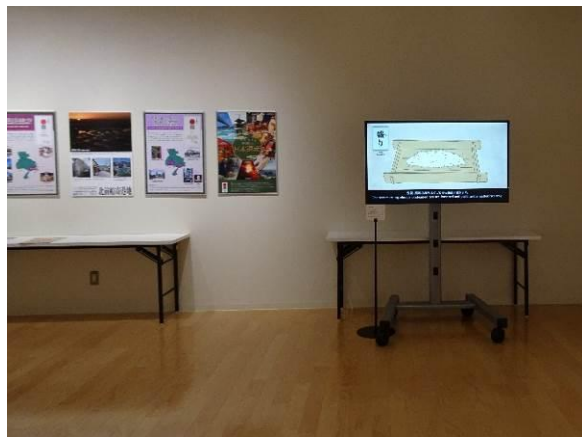


大小さまざまな船が行き来する江戸時代の海のにぎわいと航海技術を紹介するために、「コラム展示 荷物を運ぶさまざまな船～江戸時代大阪湾のにぎわい～」のコーナーを設け、和船模型・錦絵・航路図・船磁石などを展示した。江戸時代前期、幕末～明治期の2種類の和船模型を展示できたこと、うち1点は所蔵館の協力によって露出展示が実現できたことにより、和船の構造や発展のようすをより深く学ぶことができた。



「第3章 魚肥をつかう～商品作物を育てて売る～」では、魚肥を使って育てた作物として①木綿（綿織物）、②米（灘の酒）、③豊後産の青筍（畳表）の3つをとりあげた。これらの作物が生活必需品や嗜好品の原材料になったことに重点を置いた展示構成とし、古文書などの文字資料、錦絵や民具、古写真などを展示した。

とりあげた商品作物のうち①木綿（綿織物）、②米（灘の酒）は兵庫県の地域産業として知られるもので、糸つむぎに使う民具や、酒造原料としてたくさんの米を買い集めたことが分かる古文書などを展示した。特に木綿については、綿の実の実物、綿の実から糸をつむぐ民具、木綿糸からつくられた作業着を展示し、商品作物が生活必需品や嗜好品に加工されたことが視覚的に分かり、海のめぐみ（魚肥）が人々のくらしを大きく変えたことを感じられる展示構成とした。



「第4章 魚肥がもたらしたものの～現在（いま）につながる生活文化～」では、海のめぐみ・魚肥が育んだ生活文化やひょうごの産業として、綿織物、日本酒をとりあげ、明治時代以降の産業の発展や現在の産地の取り組みを学ぶパネル展示を行った。県内の市町などが制作した広報用PR動画も活用し、海のめぐみ・魚肥が現在の身近な生活文化につながっていることを学べるよう工夫した。



体験資料コーナー「さわる・みる・かんがえる～パズルで学ぶ うみ・ふね・さかな」を併設し、展示資料をもとにしたパズル・クイズ・複製資料を置いた。パズルやクイズの内容は親しみやすく容易な内容とし、遊びながら展示への学びを深め、海・船・海洋資源に親しみを持てるよう工夫した。



神戸大学生活環境計画研究室（山口秀文講師）との連携展示、「江戸時代を映す明治・大正・昭和戦前の兵庫津」を実施。江戸時代～昭和戦前期の兵庫津のまちと商いと生活を映す絵図・地籍図・空撮写真・古写真などを紹介するパネル展示を行った。

【来館者の声】

- イワシの意外な使い方を初めて知った（肥料）。海と陸との深いつながりを感じた。SDGs の原点だと思った。
- それぞれの地域に品物を運ぶ（流通させる）ことによって、それぞれの土地の生活がより豊かになることが分かった。
- 魚肥を売り買いする流通の拠点としての兵庫津の重要性がよく分かった。兵庫津の商人と港のシステムがおもしろかった。
- 北前船だけでなく尾州廻船が兵庫近海で活躍していたことを初めて知った。
- イワシが泳いでいる動画（姫路市立水族館の播磨灘大水槽）が印象に残った。これからも持続可能な社会をつくるために海を守る必要があると感じた。
- パズルや子ども用の解説があり、年齢を問わず楽しめる工夫が感じられた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

2. 関連事業の内容

■特別講演会「江戸時代の尾州廻船と兵庫・大坂」

【開催日時】2024年10月27日（土） 13:30～15:00

【開催場所】兵庫県立兵庫津ミュージアム ひょうごはじまり館3階研修室

【参加者数】109人

【実施内容・目的】

- 展示でとりあげる江戸時代の尾州廻船について、曲田浩和氏（日本福祉大学経済学部教授）による学術講演会。尾張国（伊勢湾）を拠点とする廻船集団と大阪湾・兵庫津との関わりについて、最新の研究成果を分かりやすく講演していただく。
- 展示で取り上げた時代・テーマについて、その社会背景を知ることで、展示への学びを深め、海と人とのかかわり方を改めて考える機会とする。



講演会場全景



曲田浩和氏による講演のようす



展示でとりあげた江戸時代の尾州廻船をテーマにした、曲田浩和氏（日本福祉大学経済学部教授）による学術講演会。尾張国（伊勢湾）を拠点とする廻船集団と大阪湾・兵庫津との関わりについて講演していただいた。船・海運業によって遠く離れた地域と深く結びついていたことを知り、海がつなぐネットワークの広さを感じる機会となった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

【来館者の声】

- 江戸時代の廻船について物流のようすが分かった。海流を使って遠くまでものが運ばれ、各地が発展したのだと思った。
- 海を通して各地がつながっていることが分かった。
- むかしは海・海運が交易活動の主力であったこと、船による経済活動がさかんだったことが分かった。

■講演会「江戸時代のイワシ・ニシンと兵庫津」

【開催日時】2024年11月9日（土） 13:30～15:00

【開催場所】兵庫県立兵庫津ミュージアム ひょうごはじまり館3階研修室

【参加者数】127人

【実施内容・目的】

- 魚肥を売り買いした兵庫津の商人について、展示担当学芸員 加納亜由子による講演会。展示する資料を深く読み解きながら、江戸時代の魚肥流通と兵庫津の繁栄との関わりについて講演する。
- 展示資料についてより詳しい読み解き方を学び、その社会背景を知ること、海と人とののかわり方を改めて考える機会とする。



講演会場全景



講演の様子



江戸時代の魚肥流通と兵庫津の商人の関わりについて、展示資料をより深く読み解きながら、兵庫津の諸問屋車屋五兵衛の商いのようすを紹介した。海のめぐみ（魚肥）や海運業が港町兵庫津の発展をもたらしたことを学び、海・船・港への関心を高める機会となった。

【来館者の声】

- 海～生き物～土地（植物）の間で資源が循環して、江戸時代の商業の発展が支えられていたことが分かった。
- 古文書を読み解くことで海運を支えた商人のダイナミックな活動が分かり、面白かった。
- 海は物流の要であることが分かった。海は、荷物を運ぶ船が行き交う“交通路”だと思った。江戸時代の海運業（廻船）についてもっと知りたくなった。

■イベント「江戸時代を楽しもう」

【開催日時】2024年11月24日（日） 11:00～15:00

【開催場所】兵庫県立兵庫津ミュージアム ひょうごはじまり館1階・2階

【参加者数】142人

【実施内容・目的】

- 展示への学びを深めるために、江戸時代や海に関わる複数のワークショップを実施する。
- 遊び・体験を中心としたワークショップコーナーを複数出店することで、博物館や海に親しみを持つ機会とする。



イベント会場全景（2階）



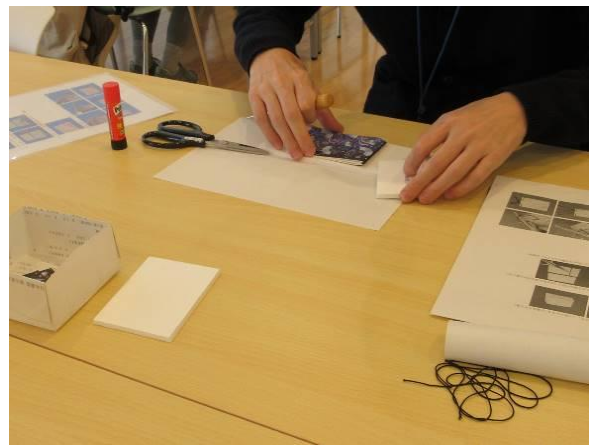
兵庫県立考古博物館ボランティアによる体験ブース



江戸時代～ちょっと昔のくらしや、海に関わるワークショップを実施した。

綿繰りと糸つむぎ体験、兵庫津ゆかりの魚釣りゲーム（兵庫の生けすでイワシ釣り）、古文書風メモ帳づくり、江戸時代クイズ大会、むかし遊びコーナーなど、遊びながら学べるブースを複数出店し、にぎわいある楽しいイベントになるよう工夫した。

家族連れで楽しむすがたや、一日かけて全てのブースを体験するすがたも見受けられ、博物館や海に親しみを持つ機会となった。



「古文書風メモ帳づくり」のブースでは、和綴じの小さなメモ帳づくりを体験した。綴じ糸と表紙の千代紙には鮮やかな色味の材料を複数パターン用意し、好みの色味のものを選ぶようにした。参加者は材料を折り、目打ちで穴をあけ、針を使って糸で綴じて自分だけのオリジナルメモ帳を製作していた。メモ帳づくり体験を通して江戸時代の古文書の構造・かたちを知り、昔のことに関心を寄せる機会になった。



「むかしの機織り体験」は、兵庫県立考古博物館ボランティア（ひょうご考古楽倶楽部 同好会「織姫」）のみなさんに、伝統的な手法の糸つむぎ・機織りを体験できるブース出展を依頼した。日ごろの県立考古博物館でのボランティア活動の成果をもとに、木綿の実から種を取りのぞく体験、木綿の繊維を糸につむぐ体験、木綿糸を布に織る体験を出展していただいた。むかしの糸つむぎ・機織りを忠実に伝承・再現する体験でありながら、年齢を問わずに親しめるように工夫されており、大人から未就学の子どもまで目を輝かせて体験しているすがたが印象的であった。



「兵庫の生けすでイワシ釣り」のブースでは、紙でつくった魚（ゼムクリップ付き）を磁石のついた釣りざおで捕まえるゲームを行った。つかまえる魚は、江戸時代の兵庫津にゆかりのある魚種と、展覧会のテーマであるイワシ・ニシンとした。壁面では、江戸時代の兵庫津が「さかな」の町だったことを紹介するポスター展示を行った。参加賞として江戸時代のイワシ・ニシンを紹介するシールを配布し、帰宅後してから当館での体験を振り返れるよう工夫した。



「江戸時代クイズ大会」のブースでは、江戸時代の歴史や港町兵庫津のにぎわい、江戸時代の海と魚にちなんだクイズ大会を実施した。大人から子どもまで歴史好きの方が参加し、歴史クイズに挑戦した。海や魚についての少し難しい問題も出題され、海と人とのかかわり方を改めて考える機会となった。

【来館者の声】

- イベント参加の合間に展示も鑑賞した。海洋生物がわたしたちの生活を支えていたことが分かり、興味深かった。
- 子ども二人（小学生、未就学児）と来た。今回のようなイベントを通して、海や港町兵庫津への親しみを深めてほしいと思った。
- 機織り・糸つむぎ体験が印象に残った。魚釣りゲームが楽しく、港町兵庫津ゆかりの魚について楽しく学ぶことができた。

■ギャラリートーク

【開催日時】①2024年10月26日（土） 13：00 ～

②2024年12月1日（日） 14：00 ～

【開催場所】兵庫県立兵庫津ミュージアム ひょうごはじまり館2階展示室

【参加者数】① 6 人

② 18 人

【実施内容・目的】

- 展示担当学芸員による展示解説。企画展示室内で実際の展示資料を見ながら、展示のみどころを解説する。
- 展示担当学芸員と対話しながら展示を鑑賞することで、展示への学びを深め、わたしたちのくらしと海との関わり方を改めて考える機会とする。



展示室全景



ギャラリートークの様子





企画展示室内で実際の展示資料を見ながら、展示のみどころを解説した。特に注目してほしい資料や、展示資料の社会背景などについて、詳しい解説を行った。

展示担当学芸員と対話しながら展示を鑑賞することで、展示への学びを深め、わたしたちのくらしと海との関わり方を改めて考える機会となった。

【来館者の声】

- とても分かりやすい解説だった。魚肥の流通や酒造米の仕入れの流れがよく分かった。
- 魚（イワシ・ニシン）と農作物の関係がよく分かった。
- いわしやにしんが肥料になるようすをもう少し詳しく知りたいと思った。

【事業全体のまとめ】

企画展示・関連事業ともに観覧者満足度はとても高く、「海・船・港への関心を醸成する」という事業目標を達成することができた。

本サポート事業の活用によって、和船模型・民具の立体資料や大型の絵画資料を借用・展示することができ、メリハリある親しみやすい展示空間を作ることができた。展示室内ではこれら貴重資料への注目度がとくに高く、「わたしたちのくらしと海との関わり方」を考え、「海がつなぐネットワークの広さ」を再認識する機会となった。来館者からは「海運・流通がそれぞれの土地の生活をより豊かにすることが分かった」などの評価を得た。

本サポート事業の活用によって、遊びながら学ぶ工夫も展開することができた。企画展示では、体験資料（パズル）を制作・設置し、遊びながら展示をふりかえる仕組みをつくることができた。ワークショップイベントでは、「家族連れで企画展を丸ごと楽しむイベント」に拡充する工夫・仕掛けを実現できた。「子どもと一緒に来た。今回のようなイベントを通して、海や港町への親しみを深めてほしいと思った」といった参加者の感想があり、楽しみながら学びを深め、海と人とのかかわり方を考える機会につながった。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 姫路市立水族館	播磨灘大水槽（カタクチイワシの群れ）の撮影
2. 兵庫県立考古博物館ボランティア ひょうご考古楽倶楽部	体験イベント「江戸時代を楽しもう」で実施する「むかしの機織り体験」の企画協力、イベント当日の体験補助
3. 神戸大学生生活環境計画研究室	パネル展示「江戸時代を映す明治・大正・昭和戦前の兵庫津」の出展（兵庫津における歴史的資源を活かしたまちづくりに関する研究の成果展示）
4. 神戸学院大学経営学部松田ゼミナール	体験イベント「江戸時代を楽しもう」への体験ブース出展（不思議なライトで光るお魚や船をつくろう）
5. 日本福祉大学知多半島総合研究所	特別講演会「江戸時代の尾州廻船と兵庫・大坂」への講師派遣

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. Kiss PRESS	「イワシとニシン、兵庫津には意外なつながりが?!」（2024年8月30日掲載）
2. 神戸新聞	「江戸期「兵庫津」繁栄伝える企画展」（2024年11月24日、朝刊）
3. 神戸新聞	おでかけトピック「歴史の旅へ 神戸で江戸期の「魚肥」文化展」（2024年11月25日掲載）
4. サンテレビ	ニュース「江戸時代に栄えた港町 兵庫津をひもとく企画展」（2024年11月29日放送）
5. 京都バス・京都市交通局	展覧会ポスターの掲出（2024年10月末～12月8日）

以上